

令和2年度 第3回 市民参加推進会議（会議録概要）

開催日時	令和2年12月8日（火）午後2時から午後4時まで
開催場所	市役所東庁舎1階会議室101
出席者	吉井会長、野口副会長、加藤委員、竹内委員、 花山委員、寄本委員、小川委員、佐々木委員
欠席者	0名
事務局	市民活動支援課 松岡課長、紫尾主事
傍聴者	3名
議題	平成31年度市民参加の実施状況に対する総合的評価
資料	① 令和2年度第3回白井市市民参加推進会議 次第 ② 評価シートまとめ（事業No.1～No.3） ③ 各事業調査表概要（事業No.1～No.3） ④ 令和2年度市民参加推進会議スケジュール

（会議次第）

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
平成31年度市民参加の実施状況に対する総合的評価
4. その他
5. 閉会

（会議内容）

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 平成31年度市民参加の実施状況に対する総合的評価

○委員

・今日は、評価に関して言えば、事実上の第1回目ということで、皆さん方はそれぞれ評価シートを出された中で、それに基づいた、あるいはそれに付随した形で今日は議論を進めたと思います。

○事務局

・議題に入る前に評価の部分で少し。評価項目の中で、実施した市民参加の手法の数については、実施した手法掛ける5点となっていますので、例えば市民参加を三つやっていたら15点、二つやっていたら10点と、ここは原則個人の判断が入らないところになります。同じ点数のところは、一律事務局で直しをさせていただきます。

・審議会の部分で、評価項目の「公募委員の数・全体に占める割合」市民参加推進会議が求める望ましい水準のところ、市民感覚を大切にする審議会50%、また、技術的専門的な審議会30%の公募委員を入れていますかという基準がありますが、こういった定量的な個人の判断が入らない場所についても、一律に直したいと思います。

○委員

・この先の進め方ですが、それぞれ皆さん方、評価シートで出された内容について御説明あるいは追加訂正も含めて、いただきたいと思います。その前に、先生方から、何かお話があれば、それを参考にしていろいろ考えたいというのがありますから。

○委員

・今、定量的な点数とか評価方法について、お話も出ていましたが、もちろんそれも大事ですけれども、やはり各方に頂いたコメントだとか意見がいろいろあると思うので、定量的というのは、一つ目安としながらも、コメントがむしろ結構重要になってくるのかなと思いますので、ぜひ御意見を出していただければなと思っております。

○委員

・私自身、調査票を読ませていただいて、点数がすごくつけづらかったり、本当にこんなに低かったり高かったりしていいのか、点数の違いがあって不安なところもあったのですけれども、皆さんの点数を見させていただいて、比較的点数に関しては、似通っているところがあったので、安心したところがあります。

・点数のいい悪いではなくて、一つ一つのコメントを課にしっかり伝えていって、今後の市民参加というものを充実させていくということが重要なのかなと考えております。結構いろいろコメントが書いてあるので大変なのですが、ほかの方の書いたことも読みながら、ここで議論していけたらと考えています。

○委員

・市民参加の手法に関しては、個人の判断を入れない。やっていたら満点、15点としている。満点が問題であれば変更など、あとで指摘することで良いか。

○事務局

・例えば、パブコメを、これはやったうちには入らないのではないかということであれば、それはそれで、一つ手法を減らして点数づけするのかというのは、後程議論いただいて大丈夫です。

○委員

・今回、自分自身の点数を皆さんと比べたら、相当程度低い点数を私はつけていて。この評価基準、水準も、個人の判断で、これが1なのか2なのかって、今回点数のばらつきなのは分かるけれども。もしこれを使うのだったら、これが1なのか2なのか、こちらで判断できるような、もう少し詳細な基準があったほうがいいのか。送ったときにコメントで、模擬的な練習というのを1度でもやらせてもらえば、もう少し私もスムーズにできたのかな。今、自分のつけた点数が間違っていたか、低過ぎたとかということは、今自身は思っていないのだけれども、いろいろたくさん評価していく中で疑問がいろいろ出てきました。

○事務局

・今回の市民参加の総合的評価といいますのは、市民参加条例に基づいた市民参加がどれだけ適正に行われているかどうかを皆さんから評価をいただくということになります。その市民参加の条例に基づいた評価の考え方として、基準、これは市民参加の条例が求めているものが満たされているかということと、水準というのは、さらによりよい市民参加が条例以上に行われているかということになりますので、この視点から、満たされているのかどう

かということをお皆さんに点数づけをしていただいて。

点数づけをしていく中で、客観的に、先ほどの市民参加の手法の数ですとか、これはどなたが見ても同じ点数になるというものもあれば、大いに評価できるとか、頑張るとかという形で、委員さんの主観で4点か3点か2点か1点かということもあります。

今回、点数をつけていただいておりますので、点数が非常に重要視されていくという部分の考え方もあるのですけれども、点数をつけるに至った考え方、理由、そういったようなものを皆さんの中で御意見としてお一人お一人に述べていただいて、その中から市民参加が果たしてどうだったのかということをお議論いただくというのがこの委員会の大切なポイントだと思いますので、そういった視点から、皆さんの御意見をどんどん出していただければと思います。

○委員

・これ全部やるに当たって、どちらかというところ、コメントを書くことに一生懸命になってしまって、この事業についてはこうなのかなと思いつつやらせていただいている。数字に関するところは基本的に頭に入ってなく、水準とか評価基準も後々見て、こういうことなのだと思いますので、今回、申し訳ないのですが、きちんとした数字は全然出てないなと思いつつやらせていただきました。

○委員

・点数づけについては、もうちょっと客観的な。いいなと思ったのは、さっきの客観的に数がらだ10というのだったら、これはもう最初から入れていただければ。点数づけは大事でしょうから。

・自分の気持ちの中で、1か2か3かというのは、それぞれの考え方ですから。これは一人で言っているわけじゃないから、皆さんとこうやって出し合っていれば、気づきもあるし、とはちょっと思いました。

○委員

・さっき、点数が似通っていて安心しましたと、私が自分で言ったのですけれども、やっぱりそれぞれ違っていいのかなとは考えています。見てすぐ分かるものは入れておいていただきたいです。そのほかに関しまして、例えば全体的に低い方もいましたが、いらっしやらなかったら、そこに気づきというのは生じないと思いますので、違っていいのかなというのがあります。以上です。

○委員

・私が一番気になったのは、公募委員の数が少ないなということと、もう一つは、地域の出方というかな、どういうふうに分けるかというところに、もうちょっと配慮があっているのではないかと感じています。

というのは、ニュータウン地区と在来地区というのは、分けてはいけないのかもしれないけれども、かなり意識が違います。そこをちゃんと代表者がしゃべれるような形になっているかということですね。

・一つ気になったのは、例えば西白井のコミュニティ施設、そこも南山の人が入っているのですけれども、西白井地区のコミュニティだとすると、本来ならば大山口と七次台だと思っているわけです。そこが一番使って、本来どうするかとやるところなので、そういうようなところの地域とか人の意見を公募するところの考え方が、どうも何か釈然としなかったと、

これを見ていて思いました。

○委員

・根本的に公募する市民が少ない。市民を多く参加させるための方策を十分に検討していないのではないか。一つは、大半の任期が3年と決められているのも、ネックとなっているのでは。3年あったら、子供がいる母親は出られないというふうなのは、誰も思わないのかと思うのですよね。事前にいろいろテーマを練っておけば、市民に聞かなくちゃならないものについては、1年間で終わりにしようと。1年間に5回か6回集中して会議開催にする事はできないものか、そうすれば任期は1年ですむ。現状は、年に2回3回程度しか会議開催しないで3年拘束しているのではないか。

よってほとんど60歳以上の定年、リタイヤした人しか手を挙げられない。だから、その問題がクリアになれば、今、委員さんがおっしゃった地域的な問題も、いろいろな人が出やすくなってくるし、若い人も多少なりとも出やすくなる、女の人も男の人も出やすくなるようなことにはなるのではないかなと。一番のネックは、期間じゃないかなというふうには思いました。

○委員

・特に感じたのは、地域の問題以外に、会議の時間的な割り振りです。例えば、子ども・子育て支援事業と言っているのに、平日の会議なのです。だから、本来一番困っている、例えば外に働きに出て子育てしているような人の意見というのは、全く反映できない。休みの日にやれということを行っているわけではないが、そういうのも必要じゃないかと。さっきの地域の問題と、会議の時間、回数もあるかもしれないですけども、もう少し行政側として、本来、市民の意見を得ようとするのであれば、本当に市民が参加しやすいかということをもっと考えて設定すべきだと思います。

○委員

・そのことを含めてなのでですけども、今回三つの事業があるんですけども、その三つの事業について、我々が評価する内容をどう考えて、この事業計画の公募を出しているのか、そもそもの部署の考え方がどこにも入っていないのですよ。それがあって、結果こうやりました、やったことを評価するだけというのは、余り建設的ではないのではないかなと。

・事業の委嘱の期間が3年とかありますけれども、これは例えば創生総合戦略策定、まち・ひと・しごと、これは確かに3年でしたか。でも、これ評価する期間が、1年の間の事業を評価しているのですね。そこはどうリンクしているのか。

・一番長期間、審議会をやった西白井のコミュニティは数年かかっているのでしょうかけれども、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定、これは任期が3年間だけれども、今回の調査票で、その事業期間が1年ですよね。平成31年から令和2年3月31日。これ1年間ですよ。それはどういうふうに。我々は途中を評価しているのか、委嘱期間は3年だけれども、事業計画とはリンクしていないのか、それが見ていて疑問に思ったことの一つなのですけれども。

○事務局

・今の御指摘、私も推測なのですが、審議会の任期は3年であったとしても、今回の総合戦略の策定というこの取組自体は、平成31年度からの実施ということで、そこにフォーカスを当てての市民参加ということでの帳票の記入だというふうに思われます。ですので、その

前の期間、審議会はあったのでしようけれども、今回はこの総合戦略を策定するということが市民参加に必要な事業だということで、そこに絞って取組内容を帳票に明記したということだと思います。次回ヒアリングがありますので、そのあたりは確認をしながら、認識をお互いに深めていくということになろうかと思います。

○委員

・子育て事業は、任期が、令和2年1月から令和5年1月の3か年ですよね。後で追加で送っていただいた会議の詳細というのは、第1回というのは、平成30年11月20日なのです。委嘱期間と会議の初回が合わないですよね。だから、その辺も一体どうなっているのかなと。

○事務局

・これも恐らくなのですが、この審議会は以前から継続してあって、計画自体は、平成30年9月から作り始めているのですけれども、その計画を作っていく審議会の皆さんは、この令和2年よりも前の審議会のメンバーで作り始めて、任期替えに伴って、今は令和2年からの審議会の委員の皆さんがこの会議に参加されているということで区別されているのだと思いますので、このあたりもヒアリング項目として確認するということになると思います。

・ヒアリングは、この帳票の中だけではなかなか読み取れない、恐らくこうなのではないかと思ったり、ちょっと分からないという部分をそのまま評価するという事は難しくなってくるので、皆さんで、まず一通りこの書面で評価をしていただいた上で、不明瞭だとか、再確認の意味で確認したいとか、そういったようなことを含めた質問をお寄せいただいて、次回の会議で担当職員が来ますので、そこで回答してもらおうと。そうすることによって、そういうことか、ならば評価はこうだなということをお皆さんでまた見ていただきたいと思います。

●第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略策定

○委員

・まち・ひと・しごとについては、もうちょっと職業問わず参加していただけるような場をつくって、夜とかそういう時間帯ではなくて、日中の時間帯。

・まち・ひと・しごとって、すごく課題がある事業でいらっしゃると思うのですね。だから、参加をさせていただけるようにPRとかそういったこと以外に、皆さんコロナ禍ですので、皆さん、外出されない方はしないので、図書館など分かりやすいところでPRしていただいて、事業を実施するべきではないかなと思います。

○委員

・まち・ひと・しごとの総合戦略、今、自治体の重要な計画ではありますので、様々な参加手法が、アンケート調査、審議会、パブリックコメント、ワークショップ等、様々な手法を取り入れて計画を策定したのだなと思いますけれども、ワークショップ等を見ていると、これは多分、地域ごと、各センターで開催したのだらうと思うのですけれども、地域の参加者数が24名のところもあれば、2名のところもあつたりするので、この参加者数の差といいですか、ワークショップのやり方だとか、いろいろな周知等含めて、その実施のやり方に何

か問題はなかったのかなと。

・アンケート調査等も幾つかやっている中で、まちづくりに関する若い世代のアンケート調査で、市内の幼稚園とか保育園、小学校、中学校の児童・生徒の保護者に対して実施したということで、36日間の期間でやったということなのですから、どれだけのそもそもこのQRコードつきのチラシを保護者に配ったかというのは分からないので、回収率も分かりませんが、81件というのは、多分、数としては相当少ないのかなと思いましたので、このアンケート調査のやり方自体が、そもそも問題がなかったのかと、また、果たしてこれがどれだけ意義があったのかと疑問だなと個人的には思います。

○委員

・女性が少なかったり、開催時間に関して気になっておりました。公募市民のみ2名が女性というところが、気になっていて、公募市民以外の委員の構成も、もう少し考えたほうがいいのではないかなと思います。そこは市民参加という枠から外れてしまう話ではあると思うのですが、公募市民を選ぶ際に、女性が2名になってしまったということもそれ以外の構成が関わっていたところもあるのかなという気がしたので、間接的には関わるかと思い、書かせていただきました。

・ワークショップをやられたところを高く評価をしています。周知をしっかりとやられているなという気がしたのですが、ワークショップの結果を反映していくような回に関しては、やはりワークショップに参加された方が参加しやすい時間帯というような工夫はできなかったのかなという気がしております。

・もし転入転出するときに、市役所でアンケートを書かなければいけないとなると、あんまり書きたくないなという個人的な感覚があったので、プライバシーということはどうやってフォローされていたのかというところが気になりました。

○委員

・一つは、公募をして採用した人は女の人で、他の委員は全員男性だという非常にアンバランスな構成だなと。募集にはそうじゃないようなことを一生懸命書いているのに、何でこうなるのかなと。委員である公益法人等の人たちというのは、以前にも担当した人たちなのではないかなと思うのです。変わったのは、公募した2人だけ。

・パブリックコメントには、ほかの会議についても言えるのですが、今回もほとんど大失敗しているのです。以前実施したパブリックコメントについても失敗していると思われるので、質問欄に何かありますかというところに、パブリックコメントが市民参加不調となった理由をあなたたちはどう考えていますかというのを質問してみたい。

○委員

・男女比が一番気になります。まち・ひと・しごとで、女性だけが何で平日の昼間にこういう会議に来られないのかということをもっと皆さん真剣に考えるべきだと思います。

例えば7時からとか、もうちょっと時間の融通を利かせられることはできないのだろうかとか、御主人がお休みの土日とか。まち・ひと・しごとですから、女性の意見ももちろんいっぱい聞いていただきたいですし、こういうふうなまちになってほしいなと思っている女性はたくさんいると思います。

・それからアンケート。これ丸投げで、返ってきたらラッキーみたいな雰囲気を読んですぐ取れたのです。それだとやっている意味がないのではないのかなというのがすごく

感じられました。アンケートは出しました、じゃ、何%返ってればいいかなというのではなくて、回収率、今回は8割目指そうとか、目標を掲げてもらって、実際にどのくらい返ってきたのかというのは、ちゃんと記載をしてもらいたいなど。

○委員

・いろいろなことをやられているということが書かれていますよね。ただ、本当にそのフィードバックをきちっとしようとしたのかというのがよく分からない。私もタウンミーティングなんかよく出ているほうだと思っています。でも、それが実際に審議の中でどんなふうに使われたかというのは、何も返ってこないのです。だから、意見についてのフィードバックが多少たりとも見えると、そこに参加した人は、またもう一回出て何か意見を言ったら、採用してもらえるかなとか、そういう意識になるとと思いますが、今までのやり方だと、行っても無駄ねとなってしまうのではないのかなと感じています。だから、もらった意見をどう反映しようとしたのかという過程をもうちょっと明確に分かるようにしてもらおうというのが大事なのではないのかなと思います。

○委員

・この課題は、重要な市の施策だということですがけれども、委員の構成を見ると、市内の在住の人が4名しかいない。そもそも白井市の重要な施策を検討するのに、市内の人が4割程度でいいのかというのが一つ大きいと思いました。それから、審議会の委員の数がどれだけの数であれば妥当なのかというのを評価基準のところに「審議会の設置の趣旨や審議内容に応じた公募人数となっているか」、これは公募の人数ですがけれども、こういう場合に、公募人数が2名で果たしていいのですかとか、さっきも申し上げたように、その部署が一体どういうふうな物の考え方でこれをやろうとしているのかというところがよく見えないというのが非常に気になりました。

・いろいろな募集にしても、いろいろな方法手段を取られていますけれども、基本的に市役所へ来る、センターへ来る、図書館へ行く、要は市民の人がどこかに出かけて、たまたまそこで情報を得たというのが手段の多くで、市からもっと市民に向けて、こういうことをやりたいのだけれども参画しませんかというような市からの情報提供というのをもう少し考えたほうがいいのではないかなと。

・メール配信というのもここにありますがけれども、メール配信を使うケースは余りない。私はたまたま白井メール配信サービスというのを登録していて、市からの情報を随時頂くようにしていて、その情報で、かなり、市がこういうことを今募集しているのだなとか、こういう研修だとか何かやろうとしているのだなという情報はある程度もらえているのですが、市からこういうことをやろうとするときに、情報を市民に向けて発信する方法手段を考えてもらったほうがいいのではないかなと思いました。

○委員

・私、最後に思ったのですがけれども、私もこの件については、1点なのです。公募委員の割合が本当に低いのではないかと。もちろん専門性のある方がいろいろと加わっていただいているのは分かるのですがけれども。

●第2期白井市子ども・子育て支援事業計画策定事業

○事務局

・1点だけ修正がありまして、各課の市民参加実施状況調査票。この中の子ども・子育ての計画のパブリックコメントの一番最初のページで、パブリックコメントの概要の4番、「提供する資料」。パブリックコメントの目的、提出方法、それから、一番下の「意見書」、こちらを出しています。なので、4番目の「提供する資料」については、「計画や条例の概要」以外は公開しています。

○委員

・子ども・子育てのアンケートを取られたということで、小学5年生及び中学2年生とその保護者、また、就学前児童保護者2,000名というのは、きちんと考えられていると思います。受験前とか、小学6年生が中学に上がるとか、そういったことを配慮されてアンケートの対象を絞られているのではないかなと思いますので、その点は、アンケートの対象をきちんと絞られていると私は思いました。

・男性の公募委員の方が女性の半数以上を満たしていなかったもので、男性もぜひ参加していただくように、審議会の公募委員の人数とか、どうしたらいいかと考えるのも正しいのではないかなと思います。

・子ども・子育てでしたら、育児されている方、働いていらっしゃる方も含めて、センターの図書館とかに行かれる方も多いと思いますので、分かりやすくされていたかなと。パブリックコメントの募集のときも、資料を見て、チェックされていなかったもので、それは思いました。

・土日とかに審議会の場を設けるときに、特にこういったことに興味を持てるように、働いているから子供がいるからとか、別に興味がないしという方もたくさんいらっしゃるのですけれども、PRの仕方によっては、興味を持たれる、特に若い方は柔軟な方が多いですので、土日にやるとか、開催の時間帯を絞られたらいいのではないかなと思いました。

○委員

・子ども・子育てに関しては、ほかの二つの事業と比べたときに、例えば市民広報の周知とか、パブリックコメントの周知方法が、例えば広報しろいのホームページだけだとか、ほかの二つの事業よりは、ちょっと少ないのがあるのかなというのがちょっと気になって。これは、もしかしたら担当課ごとで何か意識の差だとかあるのかなと個人的に。

○委員

・第1回目の審議会の内容を少し見ました。しっかりアンケート調査の結果を議論されていたことは大変評価できるのですけれども、第2回目で素案について話し合っ、その後すぐにパブリックコメントだったので、その前にもう1回くらいあったほうがいいような気がしました。

・アンケート調査結果がしっかり審議会で議論されていたところは、市民の意見が審議会で議論されていていいと思います。あとは、公募市民の割合がやはり少ないかなと思いました。

○委員

・このテーマ、市民参加については最低だと思いました。というのは、これは委員は18名ですけれども、16名がいわゆる団体の方々です。発足が25年の10月からで、大半の委員、教育委員会とか保育関係とかから出ている代表の方で、大半がそのまま更新して委員となっていると思われます。公募している人は、18人全体のうちの2人です。その2人だけは

3回替わっています。それでは市民参加の意味ないというふうが一番思いました。

・パブリックコメントについて、今回はよくできたと評価するというふうに自己評価しています。先ほど言いましたように、27年にパブリックコメントをやったときはゼロ回答でした。きっと27年度の市民参加推進会議あったときに2点言われていると思います。委員が多いのではないですかとか、公募の人間が少ないのではないかとかという話と、パブリックコメントがゼロ回答だったというのはどういうことだったのですかとか言われているのではないかと思うのですけれども、その反省も何もできていない。2人の市民に意見を出してくれといっても、関係団体委員たちに圧倒されて何も言えないのではないかとというふうに非常に思いました。

・パブリックコメントについては、いろいろ意見が過去何回もあったと思うのですけれども、子ども・子育てのことであれば、関係団体の委員が16人いるわけだから、その団体の方に、パブリックコメントの意見をあなたの部下たち、関係している人を書いてもらうように依頼できないか。そうすれば、いろいろな意見が出てくるのではないのと。

○委員

・公募の人数は少ないなと思ってはいて、子ども・子育ての事業計画であるのであれば、せめて各学区から1人ずつというのが最低条件じゃないのかなとは思いました。各学区から1人ずつ、男性でも女性でもいいので出ていただいて、お話をしていただいてというのであれば、ちょっとは違うのかなと。

・アンケートに関しては、ウェブでもできると思うのです。ウェブ回答を白井のホームページのほうに作って、ウェブで回答してもらっても全然できると思うので、やっていただけたらいいかなと思いました。

○委員

・まずは公募の人をどう選んだのか。なおかつ、選ばれた2人は50代以上なのです。一番大事な30代、40代くらいの子育てが一番しんどい、一番大切な世代の人を委員に入っていないということは、本当の意味で意見を聞いたことにならない。もう子育てがほぼ終わっているような人に意見を聞くのも大事かもしれないけれども、そこがすごく気になりました。

・会議を平日の日中というのは、子育て世代にとっては非常に苦しい時間なので、それは本来やめるべきだと思います。そういうところの配慮がないというところが一つ問題ですし、もう一つ、かなり期間があったのだけれども、審議会が5回くらいしか行われてないのです。それもタイムリーに何かやりました、出た結果で何かやりましたというようなものが見えてこない形なので、やっただけのことを書いただけというふうにしか見えなかったのが残念でした。

○委員

・公募人数が少ないのと、年齢構成が、51歳以上の方だけが公募委員に選ばれている。周知の方法が、広報しろいとホームページですけれども、ホームページを開けても、どうやったら募集のところにとどり着くのがよく分からない。募集情報というのを開けると、職員の募集が載っているだけで、こういうものを募集しているところへどうやったらとどり着くのかというところを、もう少し分かりやすいホームページの作り方も必要なのではないかなと思いました。

○委員

- ・市民参加という観点からいかなものか私は思いました。点数にこだわりませんけれども、点数自体も、私の思いに即したような形の点数だと思えます。
- ・杓子定規なことを言えば、基準、望ましい数字にそれぞれほとんどが達していないということです。

●西白井地区コミュニティ施設整備事業

○委員

- ・地域のコミュニティ施設の整備事業ということで、コミュニティとか地域で何かを決めたりするときは、結構丁寧な説明とかするのは大変だと思いますけれども、その中で審議会を含めて16回なり、住民説明会も開催したということは評価できるのかなと個人的には思っています。
- ・説明会を1回開催して、28名の参加者が来たということで、これは何回やればいいのかという話ではないですけれども、1回だけで果たしてよかったのか、もう少し丁寧に複数回やってもよかったのかなと思います。
- ・この地区説明会等の周知方法として、広報とかで周知していらっしゃるという話ですけれども、例えば地元の自治会だとかに何か呼びかけを通して、多くの人に参加してもらうような取組だとか、ここには記載されていなかったの、その辺、そういったところの取組が具体的にされたかどうかというのは、ぜひ聞いてみたいと思います。

○委員

- ・コミュニティ施設を整備するという事業なので、その施設を利用する地区の方が積極的に参加できるように、もう少し配慮すべきだったのではないかなと考えています。議事録がなぜか西白井地区のセンターに置いていなかったのは何ででしょうか。一番近いところだとは思っているので置いておいたほうがいいのかと思いました。
- ・利用する方の中に若い子育て中の方もいると思うので、そういう方も入れるべきだったと思います。それから回覧板などで地区の方に説明するような機会があってもいいかなと思いました。
- ・パブリックコメントの数が、普通の1人1件、2件というよりは、4人で28件で、普通に見るのよりも多かったの、何かしら、数名の方が、この事業に対して何か御意見を強く持っていらっしゃったのかなという気がいたしました。その前の事前説明をしっかりとやっておく必要があったんじゃないかなと捉えたので、なぜ一人の意見が多かったのかということをお伺いしたいと思いました。

○委員

- ・審議会が非常に定期的に、2か月に1回くらいコンスタントにきちっと行われている。なぜこのチームはこれかできたのかなというふうに思いました。年に2～3回しか会議開催しないのに、何で任期3年とか拘束するのか。集中して市民の声を聞くのだったら、それを1年間に全部まとめて、あとはチームが後半で、2年間は自分たちでまとめていって、最後に終わった後に協力していただいた市民の方を呼んでいただいて、報告会しますとか、何か考えてやらないと、いつまでたっても公募の人間は集まらない。

○委員

・会議がすごく多いなというのが第一印象で、出席率も見ると、結構高いのですけれども、そのうちの男女比だったりとか、公募の人がやっぱりこれしかないとかという部分は、すごく引かかりました。

○委員

・西白井地区というのは、大山口と七次台に分かれて学区があるのですが、真ん中でちょうど半分にされているのです。だから、公募委員としては、両方から出していただいたほうがよかったのではないのかなと思っているのですけれども。

・見て気になっていたのは、66歳以上の公募委員なのです、本来、あそこは、高齢化率が実際10%くらいしかないのです。非常に若い地域なのです。そう考えると、やはりもっと若い人を積極的にそういう場に参加してもらおうという取組にしたほうがよかったのではないかなと感じています。

○委員

・パブリックコメントの意見公募の20日間くらいという期間が短かったなと思いました。

○委員

・何かちょっと表面的、それなりのそこそこの点数は出るのですけれども、ちょっと物足りないなという感じは正直しました。やっている方は本気でやっているのでしょうけれども、今、皆さん方の御意見の中に盛り込まれたようなそういう感覚というのは、私自身も感じています。言葉としては、条例基準とか何とかという言葉になっちゃっていますけれども、そういうふうに感じました。

○事務局

・次回のヒアリングの目的なのですけれども、二つございます。

皆様に適正な評価をしていただくために、この書面ではなかなか読み取れない、確認しようがない部分についての疑問点を確認していただくということがまず一つです。

・職員の説明を受けて、改めて委員の皆様が、そういうことだったのか、それはよかったという部分もあるでしょうけれども、やっぱりそういうことだったら、こうあるべきだったよねということを強く思われる場面もあると思います。職員の中には、市民参加の認識が十分でない職員もいれば、十分でありながら、こういう理由でできなかったとかということもあると思います。委員の皆様からの質疑を繰り返しながら、職員が気づきを得るということが、また次の市民参加にもつながっていきますので、そういう適正な評価と職員の気づきという部分からヒアリングの機会を設けさせていただきたいと思いますので、そういった観点からの質疑を次回よろしくお願ひしたいと思います。

○委員

ありがとうございます。

●4その他

事務局より事務連絡

●閉会